慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	マラルメ・その時代と詩人
Sub Title	Stéphane Mallarmé et son temps
Author	原, 大地(Hara, Taichi)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2018
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2017.)
JaLC DOI	
Abstract	2018年度中の上梓を目標として『マラルメ・その時代と詩人』というタイトルの書物を著す。これまでの研究成果をまとめつつ, 半分くらいの分量を書き 下ろしとすることで, 30万字ほどの分量を予定する。たんに個々の作品の紹介・解説に止まるのではなく, 「ある論題を論証する」ということから逃げない叙述を心がけて, マラルメという詩人の総合的把握を目的とする。文学研究という枠に準拠しながらも, 専門研究者に向けるのではない, 広く人文書 として読まれる書物を目指す。そのために, 注はなるべく少なくし, 本文中で展開できる議論は本文に組み入れる努力を行う。 マラルメという詩人は,「絶対」「理想」を常に口にし, 当時のフランス社会において類例を見ないほど徹底した無神論を一生貫いた。その一方で彼は, きわめて社交的な精神を保ち, 多くの後進作家から慕われた。厳格さと温和さのこの不可解な混合がどのように形作られたのか, 時間軸に沿って記述・分析し, そこにある矛盾を解きほぐす。 狭い意味での文学史に, 本書の問題系を定位すれば次のようになるだろう——すなわち, ロマン主義の模倣から出発したマラルメの詩が, ボードレール的な後期ロマン主義を経て, いかにしてロマン主義を離脱し, 次世紀の文学的前衛へとつながるような先鋭的な言語の運用を生み出したのか。これに関係する問題として, フランスにおける韻文の地位, また散文詩というジャンルの問題も喚起されることになる。 2017年度は全十章のうちの第六章となる「地上と死」に関する部分の執筆を進め, おおよそ10万字ほどの草稿を準備した。 執筆に必要な資料調査のためにパリのジャック・ドゥーセ図書館への出張を行った。 Recherche sur Stéphane Mallarmé. Pour les détails, voir mon résumé en japonais. Research on Stéphane Mallarmé. For details, refer to my Japanese summary.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2017000001-20170148

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2018 年 4 月 4 日

2017 年度　学事振興資金（個人研究）研究成果実績報告書

研究代表者	所属	商学部	職名	教授	補助額	500 （特B）千円
	氏名	原 大地	氏名（英語）	Hara Taichi		

研究課題（日本語）

マラルメ・その時代と詩人

研究課題（英訳）

Stéphane Mallarmé et son temps

１．研究成果実績の概要

2018 年度中の上梓を目標として『マラルメ・その時代と詩人』というタイトルの書物を著す。これまでの研究成果をまとめつつ、半分くらいの分量を書き 下ろしとすることで、30 万字ほどの分量を予定する。たんに個々の作品の紹介・解説に止まるのではなく、「ある論題を論証する」ということから逃げない叙述を心がけて、マラルメという詩人の総合的把握を目的とする。文学研究という枠に準拠しながらも、専門研究者に向けるのではない、広く人文書 として読まれる書物を目指す。そのために、注はなるべく少なくし、本文中で展開できる議論は本文に組み入れる努力を行う。
マラルメという詩人は、「絶対」「理想」を常に口にし、当時のフランス社会において類例を見ないほど徹底した無神論を一生貫いた。その一方で彼は、きわめて社交的な精神を保ち、多くの後進作家から慕われた。厳格さと温和さのこの不可解な混合がどのように形作られたのか、時間軸に沿って記述・分析し、そこにある矛盾を解きほぐす。
狭い意味での文学史に、本書の問題系を定位すれば次のようになるだろう──すなわち、ロマン主義の模倣から出発したマラルメの詩が、ボードレール的な後期ロマン主義を経て、いかにしてロマン主義を離脱し、次世紀の文学的前衛へとつながるような先鋭的な言語の運用を生み出したのか。これに関係する問題として、フランスにおける韻文の地位、また散文詩というジャンルの問題も喚起されることになる。
2017 年度は全十章のうちの第六章となる「地上と死」に関する部分の執筆を進め、おおよそ１０万字ほどの草稿を準備した。 執筆に必要な資料調査のためにパリのジャック・ドゥーセ図書館への出張を行った。

２．研究成果実績の概要（英訳）

Recherche sur Stéphane Mallarmé. Pour les détails, voir mon résumé en japonais.
Research on Stéphane Mallarmé. For details, refer to my Japanese summary.

３．本研究課題に関する発表

発表者氏名 （著者・講演者）	発表課題名 （著書名・演題）	発表学術誌名 （著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月 （著書発行年月・講演年月）